

例会報告

脊振山ーブナの黄葉を訪ねて

佐賀市 (2024.10.20)

観察会当日はあいにくの曇り空。どうやら午後から雨が降るようだ。そんな状況の中、12名の団員が参加してくれた。今回は佐賀植物友の会の19名の皆さん一緒に黄葉のブナ林を歩く。ブナ林と聞くと東北の白神山地が有名だが、脊振山系のブナ林は自然林（自分自身で繁殖している林と言える）としては日本で一番南に位置する。本来、寒い気候を好むため、脊振山などでも標高800m以上の高地に生育している。そんな意味ある生態系を持つ山が脊振山なのである。

早速、駐車場に立つブナの木をみんなで囲んで植物友の会の神代副会長からのクイズが出題された。「この木は何本でしょう?」「1本!」「2本!!」…「5本!!!」と盛り上がる。正解は「3本」。パッと見ればブナ1種類のようなのだが、ヤマグワ、実生エゴノキを含めて3本なのだ。そして、少年団の目が良い子ども達は数少ないブナの実を次々に見つけてくれる。さすが! その後、脊振山を構成する主要な樹木の葉（紅葉・黄葉）のスキャン資料（神代作）を片手に矢筈峠を目指した。資料の葉と絵合わせしながらの観察を皆さん楽しんでいった。今年の紅葉はいつもより色付きがやや悪いとのことだったが、真っ赤に色づくコハウチワカエデの葉はひととき目立っていた。植物友の会担当者の事前調査時には、立ち枯れの木に列をなして付いていたツキヨタケ（有毒）は残念ながら消えていた。福岡管区気象台の脊振山気象レーダー観測所へ向かう道路はきれいに舗装され、道路の両脇には赤白のポールが立っている。これは冬場の積雪時にどこまでが道路かを示す大切な目印となっている。ゆっくり歩きながら、道路沿いの大木アカガシ、虫食いだらけの葉をつけたオオカメノキ（ムシカリ）、ヤマグワ等を観察。少年団の子ども達はアカガシやミズナラのドングリを拾って、殻斗（ドングリの帽子）の違いをじっくり観察していた。未来の植物博士かも!? 12時には雨が降り出すとの予報であり、雨が落ち始めたため、目的地の矢筈峠までは断念し引き返すことにした。佐賀植物友の会の皆さんと一緒に集合写真を撮影し解散。それぞれ山頂駐車場へ戻り、今年最後の野外観察会も無事に終了し帰路についた。（参加者12名）





この木、実は3本



コハウチワカエデ



矢筈峠へ向けて探索開始！



各自のペースで観察をしました



コバノミツバツツジ



サルトリイバラ



ノリウツギ



途中から佐賀平野をのぞむ



気象レーダーの周りも色どりがきれいでした